

2021年9月

## 中部経済新聞にカーボンニュートラルの 取り組みが掲載されました

株式会社シンテックホズミのカーボンニュートラルの取り組みが、2021年9月9日の中部経済新聞に掲載されました。

**CO<sub>2</sub>削減目標**  
25年に50%減（13年比）

- ・22年にCO<sub>2</sub>フリーで生産開始
- ・現場改善、製品の小型化などを推進
- ・太陽光発電など再生エネ活用

**脱炭素の革新**

**シンテックホズミ**

トヨタ自動車株式会社で、搬送システムを手掛けるシンテックホズミ（本社みよし市）は、2050年に原料調達から生産、製薬用、廃棄・再利用まで総合的に二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の発生を削減する。その前段となるのが、使用電力の削減だ。トヨタ生産方式（TPS）の考えに基づき、段

上げて、全社一丸で推進している。太陽光を増設

脱炭素への本格的な一歩は、22年の「CO<sub>2</sub>フリー生産」の開始だ。AGV（無人搬送車）やサイロロボットや搬送システムを選んでいる本社・生産課

全社的に脱炭素への取り組みを推進している

**来年、実質ゼロ生産へ**

CO<sub>2</sub>排出ゼロとする脱炭素目標を、りな生産現場の無駄を改善。レーザー加工から別の加工法に換えている。途中25年にはCO<sub>2</sub>加工部品の省エネ化し、切り替える検討を進める。製造排出を13年比5割減らす目標で、製品の形を変えて加工時間を短縮する。設計と生産技術などの担当者が部門の枠を超えて連携

**全社一丸 部門越え連携**

携し、顧客ニーズに対応した生産現場での改善を積み重ねながら改革を進める方針だ。使用電力を減らした上で、再生可能エネルギーの活用を増やして、14年から本社の約30%の電力を太陽光発電ハネルを適用している。追加で増設し出力を増やせるかが重要テーマになりそうだ。

脱炭素への取り組みを担うSDG&推進ファシリテーターの川崎勝三氏は「現時点で、CO<sub>2</sub>50%減に向けての各自のめどが分かってきた。これを製品ごとに大別し、削減の方向性を定める。このほか社内での取り組みに限らず、顧客に対しても少ない消費電力を省くロボットや、搬送システムの最適経路などを提案。再利用しやすい製薬用も進め、50年の実質ゼロに挑戦をコストアップを見込んでいます。

◆カーボンニュートラルの取り組み 紹介ページ

[https://www.shcl.co.jp/company/sustainability/carbon\\_neutral.html](https://www.shcl.co.jp/company/sustainability/carbon_neutral.html)

以上